

整備され過ぎた中国遺跡 …古都の趣き今何処

四月十七日から一週間十四回目の中国旅行を妻と行った。

何故中国といわれるが私は漢字文化の国中国が言葉は通じなくても安堵感がありつつい

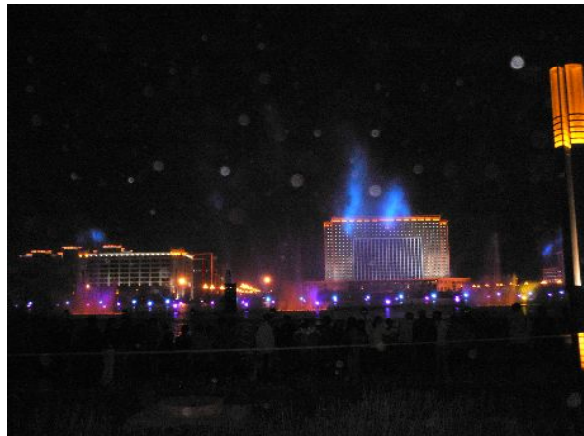


足が向く。

今回の目的は洛陽、南京の友と会うこと、西安、洛陽のお寺を巡礼することだった。洛陽の友は二十年前、OHKに一年間研修に来てからの知りあい、七年ぶりの三回目、今では洛陽電視台の副台長。南京の友は十年前知り合い、四年ぶり三回目、今では江蘇海外旅遊会社の女社長をしている。縁あって前の社長が和歌山県の出身で小学四年の時終戦を迎え中国に帰り医者となったが

<大雁塔の前で>

日本語ができるということで旅行業にまわされ、知人を通じて知り合った。ともに岡山に来た時はアッシー君引き受け、中国ではアッシー君をしてもらっている。西安では空海が学んだ『青龍寺』、『慈恩寺（大雁塔）』、『大興善寺』を巡礼、納経帳の習慣のない中国で捺印をお願いするのもまた楽しいものである。慈恩寺では作務衣を着ている私に寺のガイドさんがお坊さんですかと尋ねられたりもした。白居易の長恨歌にも唄われた楊貴妃が入浴した温泉地、『華清池』も整備の波に飲み込まれ、井戸を掘っていた農民が偶然に発見した『世界遺産兵馬俑』も、前回のとき俑を買うとサービスでサインしてくれていた発見者が、今回は公務員となりお金を取りサインしておりここも様変わり。洛陽では『牡丹祭り』の最中で、市内十五ヵ所の作られた牡丹園で牡丹が色香を競っていた。中国最古の仏教寺院『白馬寺』、中国三大石窟のひとつ『世界遺産龍門石窟』、いずれも整備され、作られた風景と化し、昔が懐かしい。洛陽一の



<洛陽市役所前の噴水ショー>

レストラン真不同（予約をとるのも大変らしい）での食事、新築した市役所前広場まで水を引き込み湖をつくり

夜噴水ショー、整備されて行く古都の様変わりに戸惑いを感じた。レートは昨年三月一万円が七百五十元だったが今回は六百五十元と元の値段が高くなっていた。

洛陽から南京までの寝台車に乗り十三時間の旅は懐かしかった。近代化の波に中国の美しさが失われつつあり一抹の寂しさを感じた旅でした。



OHK OB 渡辺昭朗

2006/5